

事業名: 間伐材出材奨励事業			
担当課: 農山村振興課			
交付金名: 地方創生推進交付金	対象事業費:	5,465	うち交付金充当: 2,732 (千円)

<1> 事業の概要

目的	間伐材の輸送コストの削減により、安定的な供給体制を整備し、間伐及び木材自給率の向上を図るとともに、森林の荒廃を食い止め、森林の保全につなげる。
実施内容	間伐材の山土場から市場又は、間伐材加工施設までの輸送に係る経費について、実績に応じて1㎡当たり300円以内の補助をすることにより、コスト削減を図り間伐促進に寄与する。
コスト削減等の工夫	森林経営計画の策定
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	森林整備事業の搬出間伐と連携している。

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【1】しごとをつくり、そこで働くひとをふやす
施策	(1-1)南丹市の特色を活かしたしごとづくりと企業誘致
基本的方向	ものづくりをはじめとした多様な「しごと」を創出するとともに、企業誘致を進める。
〈想定した事業・取り組み〉	●間伐材を活用した林業振興

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	令和3年度については、18,217㎡の間伐材を搬出 (過去の実績) 令和2年度 16,234㎡、令和元年度 22,275㎡、平成30年度 30,103㎡、平成29年度 20,079㎡、平成28年度 26,729㎡、平成27年度 21,700㎡、平成26年度 21,232㎡
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	事業実施が直接森林組合のしごとづくりに繋がるだけでなく、生産された間伐材を原料として製造業のしごとづくりにも間接的に繋がっており、総合的な林業振興に資する取組となっている。
今後の方向性	間伐材の輸送コストの削減により、安定的な供給体制を整備し、間伐促進及び木材自給率の向上に寄与する。

事業名: 特用林産振興事業			
担当課: 農山村振興課			
交付金名: 地方創生推進交付金	対象事業費:	550	うち交付金充当: 275 (千円)

<1> 事業の概要

目的	朝倉山椒の生産量の減少により需要に対して供給が追いついていない状況である。栽培技術と品質向上により生産量の拡大を図り、地域特産物として定着させる。
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 栽培技術の取得と品質向上に向け、先進地の視察及び栽培者との意見交換 試験地の選定を行い、試験地において、定植作業から収穫までの間の基幹作業 生産量の増産に向けて、生産地の選定
コスト削減等の工夫	委託事業であるため直接業務は行っていないが、仕様書どおりの業務が執行されているかや今後の事業の進め方等の関係機関と連携協議を行っており、業務に無駄が無いようにしている。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	京都府では「小さな経営革新チャレンジ支援事業」により、農業者が経営革新に向けて新たに実施する「農産物支援」「流通・販売」「6次産業」等の取組に対し、農業改良普及センターが伴走支援を通じて農業者の支援を実施している。当市においてもこれに並行して、新たな作付生産者の掘り起こしをし、栽培技術と品質向上により生産量の拡大を図り、地域特産物として定着させる。

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【1】しごとをつくり、そこで働くひとをふやす
施策	(1-1)南丹市の特色を活かしたしごとづくりと企業誘致
基本的方向	ものづくりをはじめとした多様な「しごと」を創出するとともに、企業誘致を進める。
〈想定した事業・取り組み〉	●大嘗祭献上米(丹波産キヌヒカリ)や朝倉山椒など、特産品の付加価値を活かした生産振興

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	<ul style="list-style-type: none"> 剪定講習会 参加者 20名 苗木配布 38名(40本) モデル園設置 園部町南八田地内
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	園部落から歴代徳川将軍に献上していたというルーツがある品種であるため、今後の収穫・増産を経て新たなしごとになるとともに、歴史文化振興との相乗効果も狙う。また、実が柔らかく加工しやすいことから、加工産業や飲食業への販路も期待できる。
今後の方向性	朝倉山椒について、定植してから収穫まで2~3年程度要すること、生産者の栽培技術の向上、生産量の増産を図り、地域特産物の定着をさせるため、一定期間継続した取組が必要。

事業名: サテライトオフィス誘致事業者等支援事業			
担当課:	商工課		
交付金名:	地方創生推進交付金	対象事業費:	3,100
		うち交付金充当:	1,550
(千円)			

<1> 事業の概要

目的	企業等に市内の空き家等をサテライトオフィスに活用することを促し、地域に新たなビジネス及び雇用を創出し、地域経済の活性化と地域雇用の促進を図る。
実施内容	空き家等を活用してサテライトオフィスを展開する事業者に補助金を交付する。
コスト削減等の工夫	予算に限りがあることから、希望者に事前ヒアリングを実施し、市や地域に良好な影響を与える可能性の高い事業者を交付対象者とした。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	多様な働き方推進事業費補助金(テレワーク)

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【1】しごとをつくり、そこで働くひとをふやす
施策	(1-1)南丹市の特色を活かしたしごとづくりと企業誘致
基本的方向	ものづくりをはじめとした多様な「しごと」を創出するとともに、企業誘致を進める。
<想定した事業・取り組み>	●サテライトオフィス誘致に係る企業向け相談事業や空き物件活用

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	空き家や空き施設を活用し、8社がサテライトオフィスを開設した。 これにより、地域の空き家や空き施設に人が出入りし、地域の活性化につながった。
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	都市以外で働く選択肢としての「しごと」としてサテライトオフィスを開設した企業が新たに増え、基本目標1の目標達成に向けて前進した。
今後の方向性	近年サテライトオフィスを計画する事業者が増加していることから、本事業を最大限に生かして積極的な誘致を図り、地域経済の活性化と地域雇用の促進を進める。

事業名: 商工振興助成事業(創業支援)			
担当課: 商工課			
交付金名: 地方創生推進交付金	対象事業費:	859	うち交付金充当: 429 (千円)

<1> 事業の概要

目的	南丹市内の地域資源を活用し地域が稼ぐ仕事づくりを進めるため、南丹市内において起業を志す者を対象とした創業セミナーを開催し、定住の促進と地域経済の活性化を図る。
実施内容	創業セミナーの企画、運営及び広報活動
コスト削減等の工夫	市の広報誌の全戸配布時にチラシの配布を行い、市全域に広報を行った。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	創業後の安定した経営に向けた支援策として、起業をした日から5年を経過しない起業者が、事業を周知するための展示会等への参加に要する費用に対して補助金の交付を行っている。

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【1】しごとをつくり、そこで働くひとをふやす
施策	(1-1)南丹市の特色を活かしたしごとづくりと企業誘致
基本的方向	ものづくりをはじめとした多様な「しごと」を創出するとともに、企業誘致を進める。
〈想定した事業・取組み〉	●地域資源を活用した創業者に対する支援

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	創業セミナー開催(全日程4日間) 受講者15名(定員15名) 本セミナーの全日修了者には、「特定創業支援事業」を受けた者として証明書を発行した。
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	「南丹市の特色を活かしたしごと」として起業を選んだ方々のスタートダッシュを支援したことで、基本目標1達成に向けたしごとづくり・ひとづくりができた。 更なるしごとづくりのため、事業を継続していく。
今後の方向性	今後も継続して創業支援セミナーを実施することで、さらなる起業者の増加を目指す。

事業名: 南丹市販路開拓支援事業			
担当課:	商工課		
交付金名:	地方創生推進交付金	対象事業費:	1,112 うち交付金充当: 556 (千円)

<1> 事業の概要

目的	市内に立地する工業製品、食料加工品を製造する企業等が、市内において製造、制作、加工、開発された製品及びサービス等を国内外にて開催される展示会・見本市等への出展を後押しすることにより、新規取引先の獲得等、販路開拓を目指す。
実施内容	・南丹市内の事業所が市外において、取引の新規開拓、拡大のために展示会等へ参加するために必要な経費の一部を支援する。 ・起業から5年以内の事業者が展示会等へ参加するために必要な経費を支援する。
コスト削減等の工夫	申請内容をチェック表で精査し、対象外経費の算入がないかなどを確認した。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	販路開拓緊急支援事業

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【1】しごとをつくり、そこで働くひとをふやす
施策	(1-1)南丹市の特色を活かしたしごとづくりと企業誘致
基本的方向	ものづくりをはじめとした多様な「しごと」を創出するとともに、企業誘致を進める。
〈想定した事業・取り組み〉	●事業者の販路開拓支援

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	長引くコロナ禍での各展示会の開催ではあったが、市外で開催された展示会・見本市等への出展に対し補助を行うことにより、新規取引先が獲得でき、販路開拓に繋がった。 支援件数 6件 商談件数181件 新規取引件数 8件
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	起業者の中でも基盤の弱いビギナーの自走を支援することで、南丹市で新たに生まれたしごとの定着・発展に寄与した。 当該事業を継続することで、基本目標1達成に向け、しごとづくりをしやすい環境を創っていく。
今後の方向性	新規起業者向けの販路開拓支援を引き続き行う。また、展示会などへ出展し商談相手を開拓する営業形態をもつ製造業等についてはひととおり本事業の活用は終了したため、次の展開として、さらなる大規模で世界的な展示会へ出展し、企業の成長を促す。

事業名: 南丹ブランド推進助成事業			
担当課: 商工課			
交付金名: 地方創生推進交付金	対象事業費:	300	うち交付金充当: 150 (千円)

<1> 事業の概要

目的	南丹市の地域特性のある農林水産物及びそれらを活用した加工食品等又は広く社会に認知された南丹市の特性を生かした商品及びサービス等の普及、定着を目指す。
実施内容	南丹ブランド製品の普及及び定着を目的に、流通の仕組みづくりや魅力の発信を行う事業に対し支援を行う。
コスト削減等の工夫	パーキングエリアにおいて南丹ブランドの特産品や加工品を対面販売することにより、市外の観光客を主なターゲットとして効率よくアピールすることができた。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【1】しごとをつくり、そこで働くひとをふやす
施策	(1-1)南丹市の特色を活かしたしごとづくりと企業誘致
基本的方向	ものづくりをはじめとした多様な「しごと」を創出するとともに、企業誘致を進める。
〈想定した事業・取組み〉	●地域資源を活用した創業者に対する支援

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	ブランド定着イベント事業を1事業者が活用し、市内で生産された付加価値の高い農作物を観光者等に販売し、都市部を支える農産物の生産地であることをイメージ付けられた。
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	単純な販売支援によるしごとづくりではなく、ブランド製品による魅力発信の意義の大きい取り組みである。 継続的に取り組むことでファンの創出や市のPRなど、基本目標2の達成にも寄与する。
今後の方向性	本事業を通じて南丹ブランド製品の普及及び定着を進め、魅力の創出を行うとともに、それらの流通により南丹市の付加価値を高める。

事業名:	ものづくりのまち推進事業		
担当課:	地域振興課		
交付金名:	地方創生推進交付金	対象事業費:	260 うち交付金充当: 129 (千円)

<1> 事業の概要

目的	「ものづくり」をテーマに誰もが気軽にものづくりを体験できる事業や工芸を主とした展示会を開催する。
実施内容	誰もが気軽にものづくりを体験できる事業や工芸を主とした展示会を開催したほか、ものづくりの開催をめざしたネットワークの構築を図った。
コスト削減等の工夫	南丹市工芸家協会に委託することにより、南丹市内外において南丹市のものづくり事業のPRなど工夫した取組を実施できた。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【1】しごとをつくり、そこで働くひとをふやす
施策	(1-2)地域産業の担い手となるひとづくりと市内就職・起業支援
基本的方向	都会で働く以外の選択肢を求める多様な価値観に応えられる就業支援や人材育成を行うことで、地域で働くひとを増やすとともに、事業者支援で地域産業の衰退を防ぐ。
〈想定した事業・取組み〉	●地域の伝統産業の後継者育成

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	南丹市の特長であるものづくりに関わる様々な取組を、市民とともに行ったことにより、ものをつくる楽しさやものを大切にする暮らしについて考える機会を提供できた。 ○市内における展示会等 ・みんなで南丹市工芸家協会展プロジェクト(コロナ禍のため、合同ではなく、個人による展示会): 6/3~6/28、7/1~8/2、7/22~8/1、7/23~7/25、11/18~11/29 (わざどころ PON 他) 出展作家8名 ・ものづくり体験ワークショップ: 11/27(気になる木「JUJU」) 木製カッティングボードづくり・ろくろでお茶碗作り・手びねりで動物作り ・その他展示会 通年(井筒八ッ橋本舗 新光悦)
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	市内工芸家とその作品のPRに資する取組を包括的に協会委託することで、市の特徴的な地域産業であるものづくりの担い手を守り育て、誘引していく。
今後の方向性	ものづくりのまちとして、取組みを継続する。

事業名:	小規模企業支援事業		
担当課:	商工課		
交付金名:	地方創生推進交付金	対象事業費:	432 うち交付金充当: 216 (千円)

<1> 事業の概要

目的	南丹市商工会の会員である市内小規模企業者が経営安定のため資金融資を受けた場合の利子の補給及び京都信用保証協会の信用保証料の助成を行うことにより、市内小規模企業者の経営の安定に資する。
実施内容	対象資金の融資を受けた場合の利子の補給 京都信用保証協会の信用保証料の助成
コスト削減等の工夫	商工会及び市で申請の内容をダブルチェックし、補助金の額の適正化に努めた。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【1】しごとをつくり、そこで働くひとをふやす
施策	(1-2)地域産業の担い手となるひとづくりと市内就職・起業支援
基本的方向	都会で働く以外の選択肢を求める多様な価値観に応えられる就業支援や人材育成を行うことで、地域で働くひとを増やすとともに、事業者支援で地域産業の衰退を防ぐ。
〈想定した事業・取り組み〉	●小規模な事業者の経営安定化支援

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	市内18事業者に対し、利子補給金を交付した。
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	中小事業者が大半を占める南丹市におけるしごと(働ける場)づくりにおいては必須の事業である。 小規模事業者の経営安定化・事業拡大を間接的に支援することにより、基本目標1の達成に好影響を与えていく。
今後の方向性	小規模事業者の経営安定と成長のための新たな設備投資を推進するため、引き続き制度を設置し、積極的な制度利用を呼びかける。

事業名: ものづくり産業雇用支援助成事業			
担当課:	商工課		
交付金名:	地方創生推進交付金	対象事業費:	600 うち交付金充当: 300
(千円)			

<1> 事業の概要

目的	南丹市内において製造業を営む事業者における市民の雇用を促進し、南丹市の経済の活性化を図る。
実施内容	市内製造業を営む事業者が市民を雇用するにあたり、当該事業者に対し助成金の交付を行う。
コスト削減等の工夫	ホームページでの広報の他、市内の誘致企業に対しダイレクトメールによる事業周知を行い、広報活動を行った。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【1】しごとをつくり、そこで働くひとをふやす
施策	(1-2)地域産業の担い手となるひとづくりと市内就職・起業支援
基本的方向	都会で働く以外の選択肢を求める多様な価値観に応えられる就業支援や人材育成を行うことで、地域で働くひとを増やすとともに、事業者支援で地域産業の衰退を防ぐ。
〈想定した事業・取組み〉	●事業所の雇用促進支援

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	市内の4事業者6名分の助成金を交付した。市内雇用を促進する事業者の支援及び定住の促進を図ることができた。
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	直接的に市民の雇用数増加に寄与する事業。 小規模ではあるが、基本目標1の達成に向け、地元で働く人材を確保でき、市外への労働力流出抑制に寄与している。
今後の方向性	引き続き市内製造事業者への市民雇用の奨励、支援により、南丹市への定住促進を図る。

事業名: 商工振興助成事業(商店街活性化)			
担当課:	商工課		
交付金名:	地方創生推進交付金	対象事業費:	3,900
		うち交付金充当:	1,950
(千円)			

<1> 事業の概要

目的	南丹市内の商店街に係る消費喚起事業やまちゼミ事業等、南丹市商工会が実施する事業者支援に資する事業により、商品のPRや利用客の増加を目指す。 また、商店街等が行う事業に対する支援により、商店街の活性化を図る。
実施内容	南丹市商工会が行う南丹市内の商店街に係る消費喚起事業等に対し支援を行う。 商店街等の団体が行う地域交流に係る事業や販売促進事業、情報発信事業等に対し支援を行う。
コスト削減等の工夫	事業実施に際し、市が所有する移動式ワークスペースを有効活用され、イベントの賑わい創出の一助となった。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【1】しごとをつくり、そこで働くひとをふやす
施策	(1-2)地域産業の担い手となるひとづくりと市内就職・起業支援
基本的方向	都会で働く以外の選択肢を求める多様な価値観に応えられる就業支援や人材育成を行うことで、地域で働くひとを増やすとともに、事業者支援で地域産業の衰退を防ぐ。
<想定した事業・取り組み>	●地場産業の事業承継(後継者育成・事業合併など)支援

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	コロナ禍ではあったが、南丹市商工会により商店街活性化の一助として、年末セールの際に割引券イベントを実施された。 また、商店街等の2団体に対し、商店街の活性化のための歳末セール事業や賑わいの創出を目的とした食のイベントの実施を支援した。
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	中心市街地の産業振興を後押しすることで、基本目標1の達成に寄与する。 単なるイベント支援ではなく、持続性を意識した販路開拓・情報発信を推進する事業であるため、今後のしごとづくりに期待できる。
今後の方向性	市内商店街等の組織が自ら企画し実行する事業に対し支援することにより、商店街の活性化や地域住民との交流による賑わいの創出に繋げていく。

事業名:	空き家流動化対策事業		
担当課:	地域振興課		
交付金名:	地方創生推進交付金	対象事業費:	2,311 うち交付金充当: 1,155 (千円)

<1> 事業の概要

目的	増加する移住希望者に対して空き家バンク登録物件が不足しており、移住希望者のニーズに十分対応できていない状況を改善するため、地縁のつながりを活かした地域団体との協働により、空き家を地域資源として掘り起こし、定住促進及び地域振興に活用する。
実施内容	①空き家掘り起こし事業 地域団体の働きかけによって空き家バンクに登録された場合、団体に報奨金(1物件3万円)を支給した。また、当該空き家が活用された場合も報奨金(1物件2万円)を追加で支給した。 ②空き家掃除お助け事業 空き家バンクに登録された空き家や新規活用が見込まれる空き家について、地域団体が家財道具の撤去などを行う際の廃棄物処分費(バケツ代)を補助(1物件上限20万円)した。 ③定住ガイドブック印刷製本業務 移住希望者・空き家所有者・地域団体・企業等が活用できる制度などを集約した冊子を発行した。
コスト削減等の工夫	①②については、申請様式や各種手続きを簡素にしたことにより、申請者の事務負担を軽減させるとともに、市の業務も効率化させた。 ③の作成は業者委託とせず、職員が直接行うことでコスト削減と更新のしやすさを両立させ、印刷製本のみ障がい者就労施設に発注することにより、施設利用者の工賃アップに貢献した。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	集落支援員・地域おこし協力隊などを活用して、他の定住促進施策や地域振興施策とあわせて地域団体などに情報発信することにより、地域の实情に応じた事業展開や組み合わせを図っている。 また、活用されなければ倒壊の危険や景観を損なう恐れがある空き家を、定住促進や地域振興に活用することは、放置空き家対策と定住促進対策の双方に効果がある。

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【2】南丹市への新しい人の流れをつくる
施策	(2-1)定住・移住促進に向けた取り組みの推進
基本的方向	定住促進サポートセンターや地域おこし協力隊などを活用し、情報発信や相談事業、空き家バンク活用などの取り組みを推進するとともに、市内在住者に住み続けてもらえる取り組みを進める。
<想定した事業・取り組み>	●空き家バンク活用推進 等

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	①空き家掘り起こし事業:報奨金交付件数 登録10件・活用7件 地縁の強みを活かした地域団体の活動を支援したことにより、空き家バンク登録物件が増加し、空き家の有効活用につながった。また、地域団体の定住促進に関する機運が高まった。 ②空き家掃除お助け事業:補助金交付件数7件 空き家活用の支障となる家財道具の地域ぐるみでの撤去作業を支援したことにより、空き家の有効活用につながった。また、撤去作業を通じて、地域住民と移住者の絆が深まった。 ③定住ガイドブック印刷製本業務:発行部数1,000部 定住促進イベント・定住促進サポートセンターでの案内業務などに活用するとともに、各区長・京の田舎ぐらしナビゲーターなどに配布したことにより、若い世代の移住希望者・空き家所有者・地域団体・企業等に対して、メリットのある定住促進制度などの情報を発信できた。 ■主な支出内容:空き家掘り起こし事業報奨金・空き家掃除お助け事業補助金・定住ガイドブック印刷製本費
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	基本目標2の達成に直接影響する定住促進事業である。 令和3年度も着実に成果が出ており、目標達成に寄与している。
今後の方向性	空き家バンク登録物件のマッチング率は7割以上で、物件の選択肢を増やすことが移住者を増やす近道である。空き家を地域資源として掘り起こすには、集落にある空き家所有者との縁を活かした地域ぐるみの取組が有効であり、今後も地域団体と協働して本事業に取り組む。

事業名: 定住促進サポートセンター運営事業			
担当課: 地域振興課			
交付金名: 地方創生推進交付金	対象事業費:	6,167	うち交付金充当: 3,083 (千円)

<1> 事業の概要

目的	移住に関する情報の集約・発信、移住者を地域につなぐための相談対応、受け入れる地域を支援する窓口として、定住促進サポートセンターを設置し、移住者の積極的な受け入れと定住促進を図るための拠点機能を発揮させる。
実施内容	移住希望者を地域や空き家所有者につなぎ、地域の新たな担い手として受け入れるため、定住促進サポートセンターを拠点として会計年度任用職員を2名常勤させ、移住希望者・空き家所有者・地域団体からの相談対応や、空き家バンク物件の紹介などを行った。
コスト削減等の工夫	移住・定住のワンストップ窓口としての機能を持ち、相談対応を効果的に行っている。 また、地域おこし協力隊・集落支援員と事務所を共用し、コスト削減と公共人材間の連携強化を両立させている。 平成30年8月には(公社)京都府宅地建物取引業協会、(公社)全日本不動産協会京都府本部と空き家バンクの運営に関する協定を締結し、専門家と協力して空き家の活用を推進している。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	京都府指定の移住促進特別区域内の地域団体とともに、移住者の受け入れを行っている。 空き家バンク登録物件を増加させるため、空き家流動化対策事業による空き家の掘り起こし活動を推進しており、地域と連携して定住促進を図っている。

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【2】南丹市への新しい人の流れをつくる
施策	(2-1)定住・移住促進に向けた取り組みの推進
基本的方向	定住促進サポートセンターや地域おこし協力隊などを活用し、情報発信や相談事業、空き家バンク活用などの取り組みを推進するとともに、市内在住者に住み続けてもらえる取り組みを進める。
〈想定した事業・取り組み〉	●定住促進サポートセンター運営

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	<ul style="list-style-type: none"> ・定住促進サポートセンターへの移住相談件数 566件 ・空き家バンク物件新規登録件数 51件 ・空き家バンク物件新規活用件数 40件 ・空き家バンク利用希望者新規登録人数 213人 ・空き家バンク物件残数(年度末現在) 70件 ・空き家バンク利用希望者残数(年度末現在) 642人 ・定住促進サイト「なんくら」の運営・更新 <p>京の田舎ぐらしナビゲーターなど地域の移住相談人材と連携・役割分担し、移住者受け入れ体制の整備や空き家情報などの発信を行ったことにより、定住促進に寄与することができた。</p> <p>■主な支出内容:会計年度任用職員人件費・事務所経費・公用車経費・ホームページ維持管理費</p>
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	基本目標2の達成に直接影響する定住促進事業である。 令和3年度も着実に成果が出ており、目標達成に寄与している。
今後の方向性	平成31年3月に市内郵便局と締結した地方創生に関する協定に基づき、平成31年4月からは地域の実情に精通した郵便局長が、地域住民とともに田舎ぐらしナビゲーターに就任し、地域の移住相談人材が増強された。 また、令和4年1月に地域おこし協力隊員を相談員とする参農サポートセンターを併設し、農業初心者に対する相談機能を追加した。 定住促進サイト「なんくら」を活用した積極的な情報発信を行うとともに、アフターコロナを見据えたオンライン相談体制を構築し、地域と連携した移住者受け入れ体制をさらに強化する。

事業名: 総合振興計画進行管理事業			
担当課:	企画財政課		
交付金名:	地方創生推進交付金	対象事業費:	247 うち交付金充当: 123 (千円)

<1> 事業の概要

目的	① 総合振興計画の進捗状況の管理という内部管理業務に外部人材(大学生)を参画させし、新しい視点での分析・改善を目指す。 ② 南丹市をよりよく知ってもらうことで関係人口化するとともに、口コミによるシティプロモーションにも寄与させる。
実施内容	計画進捗管理のためのアンケート調査(市民意識調査)、学生の視線から見た南丹市の魅力の発見、整理(総合振興計画基礎調査等)
コスト削減等の工夫	学生の新しい視点により、アンケート調査表のコンパクト化、市民が回答しやすい設問・レイアウト等の変更を行った。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	京都府立大学との包括連携協定

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【2】南丹市への新しい人の流れをつくる
施策	(2-2)ファン獲得に向けた南丹市の魅力創出・歴史文化振興
基本的方向	特徴的な歴史文化や豊かな自然地形、都市農村交流コンテンツを観光資源として活かし、広域連携にも積極的に取り組むことで、南丹市のファン(=交流・関係人口)の獲得を図るとともに、国際的イベント開催の機には海外をターゲットに南丹市のPRと誘客に取り組む。
〈想定した事業・取り組み〉	●シティプロモーション事業

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	① 18歳以上の市民から無作為抽出した市民2,500人にアンケート発送し、937人(37.5%)から回答いただけた。 ② 雇用を通じて南丹市と接点がなかった若者を関係人口化することができた。 ③ WEB回答システムを導入した。 ■主な支出内容:会計年度任用職員人件費
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	南丹市に接点のなかった若者を関係人口化することができたため、その家族、交友関係を中心に南丹市の発信が期待され、ファン獲得の足掛かりになった。 また、WEB回答システムの導入により、アンケートのICT化に着手できた。
今後の方向性	令和3年度よりアンケートをオンライン併用化したため、新たな学生の新たな視点で回答率向上とオンライン化推進を目指したい。 併せて、副次的効果である関係人口創出についても、観光や移住定住に繋がる強固なファンの獲得に繋げる方法を模索する。

事業名: シティプロモーション推進事業			
担当課: 秘書広報課			
交付金名: 地方創生推進交付金	対象事業費:	699	うち交付金充当: 349 (千円)

<1> 事業の概要

目的	市内の住民が南丹市の持つ価値を改めて認識すること、そして市外の人々が南丹市の価値を知り評価することにより、南丹市のイメージや認知度、知名度を向上させ、交流人口の増加ひいては定住人口の増加につなげることを目指します。
実施内容	イオンシネマ広告
コスト削減等の工夫	昨年度制作した南丹市情報センターによる映像を編集して使用することでコストを削減した。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	<ul style="list-style-type: none"> ・観光宣伝事業(観光交流室) ・定住促進事業(地域振興課)

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【2】南丹市への新しい人の流れをつくる
施策	(2-2)ファン獲得に向けた南丹市の魅力創出・歴史文化振興
基本的方向	特徴的な歴史文化や豊かな自然地形、都市農村交流コンテンツを観光資源として活かし、広域連携にも積極的に取り組むことで、南丹市のファン(=交流・関係人口)の獲得を図るとともに、国際的イベント開催の機には海外をターゲットに南丹市のPRと誘客に取り組む。
〈想定した事業・取り組み〉	●シティプロモーション事業

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	イオンシネマ茨木(2021/9/3~2022/3/3) 189,400人動員 9,596回上映
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	南丹市をPRする代表的事業であり、ファン獲得に繋がるイメージ形成のために様々な媒体活用を試行しているため、基本目標2の達成に寄与している。
今後の方向性	JR西日本の車内映像(WESTビジョン)やラジオ等の広告媒体を活用するほか、YoutubeなどのSNSによるPRを展開する。

事業名: 山陰本線南丹市広告宣伝事業			
担当課: 地域振興課			
交付金名: 地方創生推進交付金	対象事業費:	5,291	うち交付金充当: 2,645 (千円)

<1> 事業の概要

目的	JR園部駅以北の複線化を実現するため、JR山陰本線の利用者増加に向けた取り組みが必要なことから、JRの広告媒体を活用して全国に向けて南丹市をPRすることでJRの利用促進を図る。
実施内容	JRの駅構内でのサイネージ広告や車両内におけるポスターの掲出
コスト削減等の工夫	業務実施の中で、なるべく安価でより効果の高い広告メニューが掲載可能となるよう委託業者と協議している。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	広告に使用する写真やデザイン等について、観光部局と連携し取り組みを進めている。 また、南丹市のPR、魅力を発信することでふるさと納税の周知を図り、市の財源確保を目指す。

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【2】南丹市への新しい人の流れをつくる
施策	(2-2)ファン獲得に向けた南丹市の魅力創出・歴史文化振興
基本的方向	特徴的な歴史文化や豊かな自然地形、都市農村交流コンテンツを観光資源として活かし、広域連携にも積極的に取り組むことで、南丹市のファン(=交流・関係人口)の獲得を図るとともに、国際的イベント開催の機には海外をターゲットに南丹市のPRと誘客に取り組む。
〈想定した事業・取組み〉	●鉄道駅・車内への広告掲載・掲出

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	観光PRを通じて、観光客の誘客による山陰本線の利用促進を図るとともに、南丹市の知名度を高め、ふるさと納税の増額につながる取り組みとした。 <ul style="list-style-type: none"> ・首都圏のJR車両内窓上ポスターの掲出(11月1日～11月31日) ポスター2,500枚を京浜東北線、根岸線、湘南新宿・上野東京ラインAの車内に掲出 ・京都駅橋上マルチビジョン(8月1日～12月31日) 西口改札内正面のマルチ画面(60インチ×4面×2か所)において、PR画像を掲出 ・デジタルサイネージ 大阪駅御堂筋口J・ADビジョンWEST(6月7日～7月4日) 大阪駅御堂筋口改札外コンコース柱面に、移住促進のデジタルサイネージを掲出
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	首都圏や大阪等、府外での広告掲出に注力し、積極的にPRや誘客に取り組んでいることから、南丹市の関係人口創出に期待できる事業である。
今後の方向性	サイネージ広告などは、写真や映像で見る人に興味を持ってもらいやすくPR効果の高い広告媒体であるため、今後も活用していく。また、観光交流にとどまらず、ふるさと納税や移住促進などを併せてPRしていく。

事業名: 商工振興助成事業(商工会イベント補助)			
担当課:	商工課		
交付金名:	地方創生推進交付金	対象事業費:	1,190 うち交付金充当: 595 (千円)

<1> 事業の概要

目的	南丹市商工会が主催する商工・観光イベントに対し支援を行うことにより、南丹市の商工業並びに観光の振興を図り、地域経済の活性化につなげる。
実施内容	市民の地域への誇りや一体感を高め、観光客の集客による地域の活性化につなげるため、南丹市商工会が主催する商工・観光イベントに対し支援を行う。
コスト削減等の工夫	実行委員会に対し、花火大会の開催の有無を早期に判断するよう促し、キャンセル料を最小限に留めるよう指導した。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【2】南丹市への新しい人の流れをつくる
施策	(2-2)ファン獲得に向けた南丹市の魅力創出・歴史文化振興
基本的方向	特徴的な歴史文化や豊かな自然地形、都市農村交流コンテンツを観光資源として活かし、広域連携にも積極的に取り組むことで、南丹市のファン(=交流・関係人口)の獲得を図るとともに、国際的イベント開催の機には海外をターゲットに南丹市のPRと誘客に取り組む。
〈想定した事業・取組み〉	●自転車競技・トライアスロンなど地域の観光・スポーツイベントの振興やイベント開催

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	第75回京都南丹市花火大会は、新型コロナウイルス感染症の影響により早期に中止の判断を行い、それに代わるイベントを企画されたが、荒天のため中止となった。中止にはなったが、事業者間や地域とのネットワークの構築等、一定の効果があつた。 園部城祭りは、当初の予定から時期を変更して計画されたが、新型コロナウイルス感染症の影響によりやむなく中止となった。
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	南丹市の固定ファン獲得のための目玉事業として継続している。 コロナ禍の影響でイベント自体は中止となってしまったが、計画・準備段階における事業者や地域のネットワーク構築には寄与したため、次年度の開催や誘客に期待したい。
今後の方向性	今後も地域と協力、連携した事業を実施することにより、地域の活性化へとつなげていく。

事業名: 観光宣伝事業(その他宣伝事業)			
担当課:	観光交流室		
交付金名:	地方創生推進交付金	対象事業費:	3,685 うち交付金充当: 1,842 (千円)

<1> 事業の概要

目的	南丹市の観光によるまちづくりを推進するため、国内外に観光資源のプロモーションを行うことにより、南丹市の知名度と観光ブランドの向上を図る。 また、観光パンフレットやホームページによる観光情報の充実を図り、外国人を含む多くの観光客を誘致する取り組みを進める。
実施内容	南丹市フォトコンテスト実施、観光ポスター制作、道の駅旅案内への広告掲載、南丹市観光プロモーションツール(ティザーサイト、マップ、動画)制作
コスト削減等の工夫	委託契約時の交渉等
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	南丹市観光協会連絡会事業、森の京都DMO事業、美山DMO事業、各観光協会事業

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【2】南丹市への新しい人の流れをつくる
施策	(2-2)ファン獲得に向けた南丹市の魅力創出・歴史文化振興
基本的方向	特徴的な歴史文化や豊かな自然地形、都市農村交流コンテンツを観光資源として活かし、広域連携にも積極的に取り組むことで、南丹市のファン(=交流・関係人口)の獲得を図るとともに、国際的イベント開催の機には海外をターゲットに南丹市のPRと誘客に取り組む。
〈想定した事業・取組み〉	●海外向け観光プロモーション事業

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	<ul style="list-style-type: none"> ・南丹市観光ナビとしてティザーサイト『LifeTrail』を公開した。南丹市での暮らしをテーマに旧町ごとの周遊マップやガイド、お宿、観光施設の人々のインタビューを交えた動画を掲載。 ・第4回南丹市フォトコンテスト実施した。応募数:273 入選作品で令和4年度の市の観光ポスターを作成した。 ・9月と3月に発行の近畿道の駅旅案内に、御城印巡りと園部版ゆかりの地巡りの記事と市内3道の駅の案内を掲載した。 <p>■主な支出内容:広告料、業務委託料</p>
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	これまでにない「暮らし」に密着した切り口でのPRにより、今後新たなファン獲得に期待できる。構築したサイトを活用し、基本目標2達成に繋げていく。
今後の方向性	入込客数の増加と観光客一人当たりの消費額を上げるために、引き続きプロモーション活動を行う。引き続きコロナ収束後の旅先として選んでもらえる体制作りと情報発信に努める。

事業名: 観光宣伝事業(美山DMO補助)			
担当課:	観光交流室		
交付金名:	地方創生推進交付金	対象事業費:	14,000
		うち交付金充当:	7,000
(千円)			

<1> 事業の概要

目的	南丹市や市内観光協会、森の京都DMOなどと連携しながら、美山地域を中心に観光を軸としたまちづくりを推進する「一般社団法人南丹市美山観光まちづくり協会(美山DMO)」の運営及び事業実施を支援する。
実施内容	一般社団法人南丹市美山観光まちづくり協会(美山DMO)に補助金を交付する。
コスト削減等の工夫	都市と農村との交流事業(エコツーリズム推進事業)に係る業務委託費を含めて総額で美山DMOへ補助金として支出することで全体としてのコストが削減につながった。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	観光宣伝事業、南丹市観光協会連絡会事業、森の京都DMO事業、各観光協会事業、エコツーリズム推進事業

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【2】南丹市への新しい人の流れをつくる
施策	(2-2)ファン獲得に向けた南丹市の魅力創出・歴史文化振興
基本的方向	特徴的な歴史文化や豊かな自然地形、都市農村交流コンテンツを観光資源として活かし、広域連携にも積極的に取り組むことで、南丹市のファン(=交流・関係人口)の獲得を図るとともに、国際的イベント開催の機には海外をターゲットに南丹市のPRと誘客に取り組む。
<想定した事業・取組み>	●森の京都DMO・京都府観光連盟・関西観光本部・美山DMO などとの連携

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	地域人材育成講座の実施、エコツーリズム大会実施、新体験ツアーの造成、ご当地グルメ開発、域内産品の発信と販売の場づくり、広報プロモーションの展開、メディア対応、事業者向けセミナーや相談業務等の実施、観光案内業務、市場調査
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	美山町エリアの特徴や強みを活かした観光振興を通じて、南丹市への観光誘客に寄与する。令和3年度からは、都市農村交流コンテンツを重点化し、南丹市への新しい人の流れをつくっていく。
今後の方向性	コロナ禍により、大幅に観光入込客数が減少しているため、入込客数の増加と観光客消費単価を上げるために、美山DMOへの補助を行い、プロモーション活動を継続する。

事業名: 観光協会事業			
担当課: 観光交流室			
交付金名: 地方創生推進交付金	対象事業費:	6,381	うち交付金充当: 3,190 (千円)

<1> 事業の概要

目的	観光地としての南丹市のレベルアップと知名度の向上を図るため、市内の観光協会の運営及び事業実施を支援する。
実施内容	るり溪観光協会、八木町観光協会、日吉町観光協会、(一社)園部文化観光協会に補助金を交付する。
コスト削減等の工夫	各団体の会費収入や事業収入の増加に努めていただくよう働きかける。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	観光宣伝事業、南丹市観光協会連絡会事業、美山DMO事業、森の京都推進事業、

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【2】南丹市への新しい人の流れをつくる
施策	(2-2)ファン獲得に向けた南丹市の魅力創出・歴史文化振興
基本的方向	特徴的な歴史文化や豊かな自然地形、都市農村交流コンテンツを観光資源として活かし、広域連携にも積極的に取り組むことで、南丹市のファン(=交流・関係人口)の獲得を図るとともに、国際的イベント開催の機には海外をターゲットに南丹市のPRと誘客に取り組む。
〈想定した事業・取組み〉	●観光協会への運営補助

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	<p>るり溪観光協会・・・るり溪の清掃・管理及び観光宣伝。 八木町観光協会・・・八木地域の活性化と観光振興。ホームページによる積極的な情報発信。八木城跡の観光PR、JRハイキングや御城印の配布 日吉町観光協会・・・日吉地域の活性化と観光振興。日吉駅での観光案内、ホームページなどでの情報発信、花火大会、JR時刻表の作成 園部文化観光協会・・・サイクルツーリズム体験ツアーの実施、観光案内業務、SNSでの情報発信</p> <p>■主な支出内容 観光協会運営補助金</p>
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	<p>広大な南丹市において、各エリアごとの特徴や強みを活かした観光振興を通じて、南丹市への観光誘客に寄与する。 特に令和2年からは園部地域に観光協会ができたことで、園部地域のファン獲得に向けてより一層推進に取り組んでいる。</p>
今後の方向性	南丹市観光協会連絡会を設立し、市内の観光協会及びDMOの横連携を深め、南丹市の観光振興事業の一体化を目指す。

事業名: 観光文化資源活用推進事業			
担当課: 観光交流室			
交付金名: 地方創生推進交付金	対象事業費:	1,863	うち交付金充当: 931 (千円)

<1> 事業の概要

目的	森の恵みや歴史・文化遺産、生活文化の価値を体感できるコンテンツづくりと、それぞれのテーマごとに制作する記録映像のデジタル化を進めるとともに、南丹市内の文化遺産等の情報の見える化に取り組み、独自に構築したデジタルアーカイブシステム『森の京都「なんたん」デジタルミュージアム』を充実させるため、実行委員会に対して、補助金交付による事業支援を行う。
実施内容	文化資源活用事業補助金として、森の京都「なんたん」エコミュージアム実行委員会に補助金を支出する。
コスト削減等の工夫	
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	観光宣伝事業、美山DMO事業、各観光協会事業、森の京都DMO事業

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【2】南丹市への新しい人の流れをつくる
施策	(2-2)ファン獲得に向けた南丹市の魅力創出・歴史文化振興
基本的方向	特徴的な歴史文化や豊かな自然地形、都市農村交流コンテンツを観光資源として活かし、広域連携にも積極的に取り組むことで、南丹市のファン(=交流・関係人口)の獲得を図るとともに、国際的イベント開催の機には海外をターゲットに南丹市のPRと誘客に取り組む。
〈想定した事業・取組み〉	●対外的にアピールできる景観の発見とPR

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	テーマは森と共に生きる京都丹波高原国定公園～生命のふるさとからの贈り物～ 地域学芸員養成講座の実施、公開講座の実施、文化遺産記録映像の制作
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	南丹市の歴史文化データベースを構築している団体に対する補助を通じて、WEBを中心に歴史ファン獲得に繋げていく。
今後の方向性	令和元年度から令和5年度が事業期間になっているため、内容を精査した上で事業支援を継続する。

事業名:	展示会事業		
担当課:	社会教育課		
交付金名:	地方創生推進交付金	対象事業費:	2,227 うち交付金充当: 1,089 (千円)

<1> 事業の概要

目的	南丹市の魅力を市内外に広く周知するため、市に関連するテーマを設定し展示会等の事業を実施する。
実施内容	文化博物館・郷土資料館において季節毎に展示会を実施
コスト削減等の工夫	印刷物のデザインについては、館内で実施し製作費を削減した。また、資料の輸送についても次の事業で展示する資料を同時に借用し輸送費の削減を行った。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	市文化財保護審議委員や市民からの情報提供をもとに展示資料を収集することができた。内容に応じて市立図書館等で関係する書籍等と展示した。

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【2】南丹市への新しい人の流れをつくる
施策	(2-2)ファン獲得に向けた南丹市の魅力創出・歴史文化振興
基本的方向	特徴的な歴史文化や豊かな自然地形、都市農村交流コンテンツを観光資源として活かし、広域連携にも積極的に取り組むことで、南丹市のファン(=交流・関係人口)の獲得を図るとともに、国際的イベント開催の機には海外をターゲットに南丹市のPRと誘客に取り組む。
〈想定した事業・取り組み〉	●文化財や歴史的な景観の保存と活用

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	<p>■文化博物館: 春季特別展「岡村宇太郎 花鳥動物画の魅力／国画創作協会の画家たち」(4月3日～5月16日)484人、 夏季企画展「鉄道と観光」(8月14日～9月26日)621人</p> <p>■郷土資料館: 夏季企画展「戦争—忘れてはいけないこと、語り継がねばならないこと—」(7月17日9月12日)346人 秋季企画展「南丹の災害史～江戸時代から現在まで—体験と記録で」(10月23日～12月5日)160人</p>
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	南丹市の歴史や民俗文化を発信することにより、展示会そのものへの集客に加え、波及効果として、新しいファン獲得を期待して取り組んでいく。
今後の方向性	展示会活動は、南丹市の歴史文化や魅力を伝える重要な手段であり、実施テーマにもよるが市内外から多くの人を集客することができる。歴史文化の振興を含め、今後も引き続き実施する。

事業名: 歴史遺産振興事業			
担当課:	社会教育課		
交付金名:	地方創生推進交付金	対象事業費:	5,309
		うち交付金充当:	2,606
(千円)			

<1> 事業の概要

目的	南丹市の魅力を市内外に発信するため、京都丹波高原国定公園内にある南丹市美山町知井地区の歴史文化・民俗焦点あて事業を展開する。
実施内容	事業の中心となる文化博物館では、南丹市美山町知井地区の歴史・民俗資料の他、知井地区内にある芦生研究林の植生に着目し、市にゆかりのある作家に作品制作を依頼し、その展示を行った。展示内容に対応した図録の発刊のほか、会期中には作家のギャラリートークや現地散策、展示解説会なども実施した。
コスト削減等の工夫	実行委員会が実施する講演会などの事業と連携し、講師謝礼等の経費を削減した。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	芦生研究林設立100年の節目を迎える年であったため、京都大学を中心に、研究林の持つ魅力や抱える課題等についてシンポジウムや講演会が各地で開催された。

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【2】南丹市への新しい人の流れをつくる
施策	(2-2)ファン獲得に向けた南丹市の魅力創出・歴史文化振興
基本的方向	特徴的な歴史文化や豊かな自然地形、都市農村交流コンテンツを観光資源として活かし、広域連携にも積極的に取り組むことで、南丹市のファン(=交流・関係人口)の獲得を図るとともに、国際的イベント開催の機には海外をターゲットに南丹市のPRと誘客に取り組む。
〈想定した事業・取り組み〉	●文化財や歴史的な景観の保存と活用

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	文化博物館で秋季特別展「森と共に生きる～知井地区を中心に～」(10月16日～12月5日)を開催した。期間中、作品制作に関わっていただいた作家のギャラリートークやワークショップを開催した。会期中の来館者数は、1161人となり、市内外から多くの来館者を迎えることができた。
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	南丹市の観光コンテンツである国定公園・原生林や作家の訴求力により、一定数のファン獲得に繋がったと考えられる。
今後の方向性	展示会は終了したものの、京都丹波高原国定公園内は広大な面積を有するため、美山町知井地区以外にも特有の歴史文化や魅力がある。引き続き調査研究を進め、常設展やスポット展で周知を図りたい。

事業名:	山村留学事業		
担当課:	社会教育課		
交付金名:	地方創生推進交付金	対象事業費:	16,870 うち交付金充当: 6,244 (千円)

<1> 事業の概要

目的	南丹市美山山村留学センター「四季の里」を拠点として、都市の児童を対象とした山村留学を実施することで、自然環境の知識を深めるとともに、都市児童と保護者、山村児童と住民との交流を図る。
実施内容	1年間、親元を離れ山村留学を実施。
コスト削減等の工夫	-
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	里親の地元家庭に宿泊(1泊)するほか、地元行事への積極的な参加等による交流事業の締めくくりとして記録映像を作成する取組

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【2】南丹市への新しい人の流れをつくる
施策	(2-2)ファン獲得に向けた南丹市の魅力創出・歴史文化振興
基本的方向	特徴的な歴史文化や豊かな自然地形、都市農村交流コンテンツを観光資源として活かし、広域連携にも積極的に取り組むことで、南丹市のファン(=交流・関係人口)の獲得を図るとともに、国際的イベント開催の機には海外をターゲットに南丹市のPRと誘客に取り組む。
〈想定した事業・取り組み〉	●農業体験ツーリズムや農家民宿の推進

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	令和3年度は下記7名の児童入所により本事業が展開できた。 人数:7人(男子1人、女子6人) 学年別:2年生1人、4年生3人、5年生2人、6年生1人 出身地:埼玉県新座市、愛知県豊川市、大阪市北区、大阪市西淀川区、和歌山県紀の川市、山口県下関市 里親:7世帯(知井地内)
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	最終年度であるが、コロナ禍においても7名の児童が参加し、新たな関係人口創出に繋がった。非常に濃厚かつ世代を超えた関係人口を生み出す事業であるため、基本目標2の目標達成に寄与すると見込んでいる。
今後の方向性	令和4年度事業実施25周年を目途に、終了予定。

事業名: 生涯学習推進事業			
担当課:	社会教育課		
交付金名:	地方創生推進交付金	対象事業費:	3,000
		うち交付金充当:	1,500
(千円)			

<1> 事業の概要

目的	NHK大河ドラマ「麒麟がくる」の放映で丹波地域の戦国時代が脚光を浴びる中、かつて南丹市内にあった八木城城主で地元でも隠れた英雄となっている「内藤ジョアン」を掘り起こして、地域の歴史遺産を有効活用し、住民の愛郷心の向上と歴史ファンを中心とした観光客向けのPRを図る。
実施内容	COVID-19感染拡大により、内藤ジョアンの甲冑(オリジナル)が保管されているイギリスへの渡航が不可能となったことで、甲冑の復元に必須であった実測・解析ができず、当初の計画から変更せざるを得なくなった。そこで、代替案として、内藤ジョアンを主演とした歴史オペラを一流のスタッフ・演者で上演するプロジェクトを実施する
コスト削減等の工夫	市制15周年記念事業並びに会場となる園部文化会館リニューアルオープン記念事業として位置づけて行うことで、市全体のソフト事業費の削減を図ることができた。また、実行委員会に補助金を交付する形の事業にすることで人件費の削減も行うことができた。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	実行委員会形式でオペラを上演することで観光・歴史関係団体との連携を図るとともに、地方創生拠点整備交付金事業(R1繰越)を活用した園部文化会館を使用することで、両事業の相乗効果を狙う。

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【2】南丹市への新しい人の流れをつくる
施策	(2-2)ファン獲得に向けた南丹市の魅力創出・歴史文化振興
基本的方向	特徴的な歴史文化や豊かな自然地形、都市農村交流コンテンツを観光資源として活かし、広域連携にも積極的に取り組むことで、南丹市のファン(=交流・関係人口)の獲得を図るとともに、国際的イベント開催の機には海外をターゲットに南丹市のPRと誘客に取り組む。
〈想定した事業・取組み〉	●文化財や歴史的な景観の保存と活用

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	新型コロナウイルス感染症対策のため会場の入場制限(1/2)があったが、2日間3公演で559名の来場者があり、市内外に内藤ジョアンの魅力をPRすることができた。また、八木城跡近隣の八木西小学校からキャストと児童合唱団が出演し、当日は校内で生配信で観劇し、本物のオペラを体験する機会ができた。 ■主な支出内容:オペラ内藤ジョアン実行委員会への補助金
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	大河(明智光秀)関係コンテンツの一環として、八木城主であった内藤ジョアンのPRを本格的な舞台作品として実施したことで話題を呼び、演劇ファンや歴史ファンへの訴求力を高められたと考える。
今後の方向性	一過性のイベントで終わらないように、八木城を含む市内に多数ある城跡等の歴史遺産を、各種関連団体と連携を取りながら有効活用し、南丹市のファンの獲得を図る。

事業名: 集落活性化支援事業			
担当課:	地域振興課		
交付金名:	地方創生推進交付金	対象事業費:	5,935 うち交付金充当: 2,967 (千円)

<1> 事業の概要

目的	少子高齢化が進み、機能維持が困難な集落を中心に、地域が抱える課題の解決を図るとともに本来有している地域の力を再生し、安心して住み続けられる地域づくりを維持するため、地域実情に応じた集落の維持・活性化対策をともに考え、助言や指導を行う「集落支援員」の配置と、「南丹市集落支援事業補助金制度」による財政支援を行う。
実施内容	限界集落・準限界集落を対象に集落の自立をめざす取組に対して「南丹市集落支援事業補助金」を交付する。
コスト削減等の工夫	集落支援員同士が情報の共有等を行うことにより、物品の貸し借りや広報など経費の削減ができるよう工夫した。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	南丹市集落支援事業補助金やふるさとの誇りと絆支援補助金等を活用し、事業期間が終了した限界集落・準限界集落が、南丹市まちづくり活動交付金や京都府地域交響プロジェクト交付金等を活用して継続的に地域の活性化に取り組めるよう、集落支援員がサポートした。

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【4】誰もが安心して暮らし、活躍できる地域をつくる
施策	(4-1)誰もが住み続けたい安心・安全な地域づくり
基本的方向	年齢や障がいの有無などにかかわらず、市民の誰もが住み慣れた地域で、支え合って安心・安全に暮らせる共生社会の仕組みづくりに取り組むとともに、災害に備えた体制の強化やインフラ整備、公共交通の充実を通じて誰もが安心して暮らせるまちをつくる。
〈想定した事業・取り組み〉	●地域活動の活性化支援

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	南丹市集落支援事業補助金 ・地域再生計画策定事業 1件 10,000円 殖生区 ・再生事業 14件 6,143,000円 1年目:木住区、穴人区、和泉区、殿田区、中村区 2年目:法京区、後野区、岩江戸区 3年目:長谷区、竹井区、向山区、林区、舟津区、下平屋区
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	限界集落・準限界集落での地域活動を活性化することで、「住み続けたい安心・安全な地域づくり」に資する事業。 地域団体と集落支援員が連携して、計画的・継続的に取り組むことで「地域活動を通じた顔の見える関係」が強固になっていく。
今後の方向性	限界集落・準限界集落に対して、継続した支援を行う。

事業名: 生活路線バス等運行事業			
担当課:	地域振興課		
交付金名:	地方創生推進交付金	対象事業費:	13,460
		うち交付金充当:	6,730
(千円)			

<1> 事業の概要

目的	広大な南丹市において、公共交通の空白地が存在する八木・日吉・美山地域の生活交通を柔軟に確保するため、デマンドバスを運行し、同地域における人の流れをつくる。
実施内容	前述の地域を対象にデマンドバスの予約、運行委託を行い、市民の交通手段を確保する。
コスト削減等の工夫	通常運行のバスでは非効率であるため、オンデマンド方式で効率的な運用をしている。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【4】誰もが安心して暮らし、活躍できる地域をつくる
施策	(4-1)誰もが住み続けたい安心・安全な地域づくり
基本的方向	年齢や障がいの有無などにかかわらず、市民の誰もが住み慣れた地域で、支え合って安心・安全に暮らせる共生社会の仕組みづくりに取り組むとともに、災害に備えた体制の強化やインフラ整備、公共交通の充実を通じて誰もが安心して暮らせるまちをつくる。
〈想定した事業・取組み〉	●地域公共交通の利便性向上

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	八木・日吉・美山地域で、デマンドバスの予約、運行を行い、市民の交通手段を確保した。 八木 利用人数 2,696人 日吉 利用人数 220人 美山 利用人数 409人
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	交通弱者を取り残さないための取組みとして、誰もが安心して暮らせる地域づくりに寄与する。
今後の方向性	事業を継続し、市民の交通手段を確保し、生活の利便性を向上させていく。

事業名:	健康づくり推進事業		
担当課:	保健医療課		
交付金名:	地方創生推進交付金	対象事業費:	16,967 うち交付金充当: 8,256 (千円)

<1> 事業の概要

目的	南丹市は、平成29年2月に発足した「日本健幸都市連合」に参画し、住民が健やかで幸せに暮らせる地域社会「健幸都市」を目指している。広大な市域を有する自然豊かな南丹市において、地域ぐるみの健康づくりや健康な暮らしを支える地域コミュニティの活性化、豊かな農産物を活かした食生活の改善など、住民主体の観点に立った総合的な取り組みを進め、健康寿命の延伸を図る。
実施内容	・ICTを活用した健幸ポイント事業 ・健幸アンバサダー養成 ・健幸・食育レシピコンテスト
コスト削減等の工夫	4市町の飛び地型自治体連携によるICTサービスの活用により総予算を削減。スケールメリットと事業共同化によるコスト削減。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	明治国際医療大学との包括連携協定

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【4】誰もが安心して暮らし、活躍できる地域をつくる
施策	(4-1)誰もが住み続けたい安心・安全な地域づくり
基本的方向	年齢や障がいの有無などにかかわらず、市民の誰もが住み慣れた地域で、支え合って安心・安全に暮らせる共生社会の仕組みづくりに取り組むとともに、災害に備えた体制の強化やインフラ整備、公共交通の充実を通じて誰もが安心して暮らせるまちをつくる。
〈想定した事業・取り組み〉	●介護予防など、市民の健康づくりの推進

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	・健幸ポイント事業参加者数 453人(内、80歳以上の参加者数 77人) ・健幸アンバサダー養成人数 21人 ・健幸・食育レシピコンテスト応募数(小学生部門47点、中学生部門370点)
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	健康づくりの推進により、安心・安全に暮らせるまちづくりに寄与するもの。 単年度では結果の見えにくい事業ではあるが、ICTの活用によりコロナ禍でも個人で取り組めるため、事業参加者数を増やししながら健康づくりの機運を高めていきたい。
今後の方向性	・健幸ポイント事業 事業開始1年目の成果や課題を踏まえて事業手法の改善、充実を行いながら参加者を増やし、医療費・介護給付費抑制に向けて取り組む。企業版ふるさと納税の活用も視野に入れる。 ・健幸アンバサダー養成事業 引き続き、養成講座を実施し、新規養成者を増やすと共に活躍の場を広げる。 ・健幸・食育レシピコンテスト 応募作品が、学校給食や市内の飲食店のメニューに展開できる数を増加させると共に、市内の企業と連携し地域と共に健康づくりをすすめる。

事業名: 南丹市版地域包括ケアシステム推進事業			
担当課:	地域医療室		
交付金名:	地方創生推進交付金	対象事業費:	1,110
		うち交付金充当:	554
(千円)			

<1> 事業の概要

目的	子育て・健康づくり・疾病予防・治療・在宅療養が安心して地域でつながりながら暮らせるよう、乳児から高齢者を対象とした、“全世代型地域包括ケアシステム 美山モデル”を構築し、住み慣れた地域で、安心してつながりながら暮らせるまちづくりをおこなう。
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・保健・介護・医療等に関するデータ収集 ・地区組織・関係機関との連携会議 ・サロン参加
コスト削減等の工夫	福祉・保健・医療の視点をもつ医師が、関係機関や地域に出向き、顔の見える関係づくりを行った。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	地域包括支援センター・福祉施設・地域振興会等との連携

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【4】誰もが安心して暮らし、活躍できる地域をつくる
施策	(4-1)誰もが住み続けたい安心・安全な地域づくり
基本的方向	年齢や障がいの有無などにかかわらず、市民の誰もが住み慣れた地域で、支え合って安心・安全に暮らせる共生社会の仕組みづくりに取り組むとともに、災害に備えた体制の強化やインフラ整備、公共交通の充実を通じて誰もが安心して暮らせるまちをつくる。
〈想定した事業・取り組み〉	●介護予防など、市民の健康づくりの推進

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関連携会議 16回 ・サロン参加 5回 ・訪問健康相談 6回
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	健康づくりの推進により、安心・安全に暮らせるまちづくりに寄与するもの。ICT導入による効率的ケア体制を構築することで、住み慣れた地域での在宅医療維持に期待できる。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくりに関連するデータ収集・分析を行い、見える化できる資料作成を行う。 ・サロン等を含めた地区地域へ出向き、地域包括ケアシステムの情報発信を行う。

事業名:	中心市街地活性化事業		
担当課:	商工課		
交付金名:	地方創生推進交付金	対象事業費:	2,695 うち交付金充当: 1,347 (千円)

<1> 事業の概要

目的	持続的に街を経営する「まちづくりのマネージメント」を実践することにより、まちなかでの起業促進、雇用を生み出し、街ににぎわいを創出する。
実施内容	起業支援、空き店舗紹介、他の団体等がまちなかで行う活性化イベントのサポートを行う。にぎわい創出のためのチャレンジショップを開設し、起業促進、来街者の増加をはかる。
コスト削減等の工夫	にぎわい創出事業の執行本部機能を民間へ委託し、民間の知恵と能力を活用している。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	商店街活性化まちづくりゼミ事業(南丹市商工会)

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【4】誰もが安心して暮らし、活躍できる地域をつくる
施策	(4-1)誰もが住み続けたい安心・安全な地域づくり
基本的方向	年齢や障がいの有無などにかかわらず、市民の誰もが住み慣れた地域で、支え合って安心・安全に暮らせる共生社会の仕組みづくりに取り組むとともに、災害に備えた体制の強化やインフラ整備、公共交通の充実を通じて誰もが安心して暮らせるまちをつくる。
〈想定した事業・取組み〉	●商店街の活性化支援

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	中心市街地エリアの空き店舗の概略調査(23店舗) チャレンジショップ、日替わり店舗の実施 まちなかの商店や団体へのサポート(イベント補助、広報活動等)
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	商店街の活性化に資する取組を包括的に民間委託することで、地域内で自主的に仕組みづくりに取り組む意識を誘起している。 結果として生まれた様々な地元発の創意工夫が、住み続けたいまちづくりに繋がっていく。
今後の方向性	中心市街地の空き店舗等の情報の掘り起こしを行い、創業希望者とのマッチングや、にぎわい創出のための政策立案につなげる。

事業名: 小学校跡施設利活用推進事業			
担当課: 総務課			
交付金名: 地方創生推進交付金	対象事業費:	1,500	うち交付金充当: 750 (千円)

<1> 事業の概要

目的	小学校は地域のシンボルであり、心の拠り所でもあることから、小学校の再編により廃校となった校舎等の地域住民主体の利活用は、地域の振興に資するとともに魅力向上につながる重要な取り組みである。本事業は、地域団体が主体となり実施する南丹市内の小学校跡施設(4施設)を拠点とした公益性の高いまちづくり活動を総合的に支援することを目的としたものである。
実施内容	小学校跡施設の所在する地域内で組織された地域団体が主体となり施設を拠点として実施する小学校跡施設の利活用を推進する事業に対して、交付対象経費の10分の10以内の額で1地域団体50万円を限度として支援する。
コスト削減等の工夫	各跡施設は、地理的条件や施設規模などが大きく異なることから、費用対効果が高まるように事業主体の地域団体と事業検討段階から実施事業について相談・助言できる関係を築いている。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	小学校跡施設の利活用を推進するため、市が施設の適正な維持管理を行っている。また、庁内で小学校跡施設の利活用の推進を総括する「南丹市立小学校跡施設利活用推進本部」で情報を共有するとともに地域と市の窓口となる「南丹市協働担当職員」とも連携し事業実施している。

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【4】誰もが安心して暮らし、活躍できる地域をつくる
施策	(4-2)市民とともに歩む地域づくり
基本的方向	多様化する地域課題の解決に向け、地域を牽引する人材の掘り起こしと育成にも取り組むとともに、市民協働の取り組みを通じて地域コミュニティの衰退を防ぐ。
〈想定した事業・取り組み〉	●まちづくり活動交付金事業

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	小学校再編前の小学校区を中心とした地域コミュニティ活動が小学校跡施設を拠点して活発に実施されることにより、新たな地域アイデンティティやシビックプライドの醸成につながっている。また、地域からの要望で社会福祉法人が空き教室等を活用して社会福祉施設の設置に向けて検討を進めており、民間事業者等と地域の連携による活性化が今後も期待できる。
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	当該事業を通じて、地域課題の解決と市民活動の活性化がともに促進され、「市民とともに歩む地域づくり」に繋がっている。民間誘致に成功する事例も出ており、地域コミュニティ衰退に歯止めがかかることも期待できる。
今後の方向性	小学校跡施設を拠点とした地域の活性化をより図っていくため、交付金制度の効果を検証し、制度の点検・見直しを行っていく。一方、4施設の維持管理経費が年間16,000千円程度必要で、施設の設備も更新の時期がきていることから、地域の実情や地域団体の意向も踏まえながら、民間移譲や民間活力導入の検討を進める。

事業名: 市民協働推進事業			
担当課:	地域振興課		
交付金名:	地方創生推進交付金	対象事業費:	1,253 うち交付金充当: 55
(千円)			

<1> 事業の概要

目的	地域の公共的な課題解決に取り組む市民団体が、自分たちの地域課題を自分たちで解決するために実施する事業に対し、支援を行う。
実施内容	市民団体が主体となって地域課題の解決をするための事業に対し、交付金を交付した。
コスト削減等の工夫	市民活動に対し交付金を交付することで、市民主体のまちづくりが推進された。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	南丹市まちづくり活動交付金、京都府地域交響プロジェクト交付金の相談窓口として、中間支援センターである「南丹市まちづくりデザインセンター」と連携した。

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【4】誰もが安心して暮らし、活躍できる地域をつくる
施策	(4-2)市民とともに歩む地域づくり
基本的方向	多様化する地域課題の解決に向け、地域を牽引する人材の掘り起こしと育成にも取り組むとともに、市民協働の取り組みを通じて地域コミュニティの衰退を防ぐ。
〈想定した事業・取り組み〉	●まちづくり活動交付金事業

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	市民が自ら地域課題の解決をめざす事業を支援したことにより、市内で行われる市民活動の機会を増やすことができた。 ・南丹市まちづくり活動交付金 13件(市民団体:13件、学生チャレンジ枠:0件)
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	当該事業を通じて、地域課題の解決と市民活動の活性化がともに促進され、「市民とともに歩む地域づくり」に繋がっている。 特に継続性の高い事業を採択することで、補助期間終了後のコミュニティ衰退を抑止する効果もあると考えられる。
今後の方向性	南丹市まちづくり活動交付金は、3年間という期限を設け、活動初期段階として財政支援を行うとともに、団体が活動を継続して取り組むことができるよう、南丹市まちづくりデザインセンター等とも連携し、各種相談に対応する。

事業名: なんたん中間支援センター運営事業			
担当課:	地域振興課		
交付金名:	地方創生推進交付金	対象事業費:	5,115 うち交付金充当: 2,557 (千円)

<1> 事業の概要

目的	市民協働のまちづくりを推進し、地域課題やニーズの変化に対応した支援を行うため、中間支援センターとして、「南丹市まちづくりデザインセンター」を運営する。
実施内容	南丹市まちづくりデザインセンターの運営を委託した。
コスト削減等の工夫	南丹市まちづくりデザインセンターの運営を委託することで、市民や市民団体が気軽に相談できる体制とした。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	南丹市まちづくり活動交付金、京都府地域交響プロジェクト交付金など様々な相談窓口として、対応した。

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【4】誰もが安心して暮らし、活躍できる地域をつくる
施策	(4-2)市民とともに歩む地域づくり
基本的方向	多様化する地域課題の解決に向け、地域を牽引する人材の掘り起こしと育成にも取り組むとともに、市民協働の取り組みを通じて地域コミュニティの衰退を防ぐ。
〈想定した事業・取り組み〉	●南丹市まちづくりデザインセンターの運営

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	市民協働のまちづくりを推進するため、運営資金に関するアドバイス、情報の受発信や団体間の連携のコーディネートなど、団体に応じたアドバイスを行うことにより、市民活動の活性化につながった。 ・南丹市まちづくりデザインセンター 来館者 768人 相談件数 351件 電話相談 111件
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	多様化する地域課題の身近な相談窓口として、経験豊富なNPOが円滑に対応できている。結果、地域を牽引する人材の掘り起こしと育成に寄与している。
今後の方向性	市民協働のまちづくりを推進するため、南丹市まちづくりデザインセンターの運営を委託する。

事業名: 大学等連携推進事業			
担当課:	地域振興課		
交付金名:	地方創生推進交付金	対象事業費:	995 うち交付金充当: 497 (千円)

<1> 事業の概要

目的	南丹市と連携協力・包括協定を締結している学校や京都府内に拠点を置く大学などの高等教育機関や学生が主体となり、市内で様々な取組の実施と、普段交流する機会が少ない他大学の学生や地域住民とが交流する機会をつくりを推進する。
実施内容	京都府内に拠点を置く大学や高等教育機関が南丹市内で実施する様々な活動に対し、交付金の交付や学生と地域住民の交流を実施した。
コスト削減等の工夫	大学・学生・住民の交流が図れた。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	まちづくり活動交付金の交付や南丹市まちづくりデザインセンターと連携した。

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【4】誰もが安心して暮らし、活躍できる地域をつくる
施策	(4-2)市民とともに歩む地域づくり
基本的方向	多様化する地域課題の解決に向け、地域を牽引する人材の掘り起こしと育成にも取り組むとともに、市民協働の取り組みを通じて地域コミュニティの衰退を防ぐ。
〈想定した事業・取り組み〉	●まちづくり活動交付金事業

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	<p>大学と地域、学生と地域の連携や大学・学生が地域活動に参加していくため、NPO法人テダスに委託し、南丹市学生交流プロジェクトを実施した。また、京都府内に拠点を置く大学などの高等教育機関や南丹市と協定を締結している学校が、南丹市内で取り組むまちづくり活動を支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南丹市学生交流プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> 10/22 地域活動団体×京都中部総合医療センター看護専門学校 参加者 13人 2/15 地域活動団体×明治国際医療大学 中止 ※新型コロナウイルス感染拡大によるまん延防止措置が発令されたため ・学校提案型まちづくり活動交付金 3件 600,000円 <ul style="list-style-type: none"> 明治国際医療大学 「安全・安心な草刈を通じた地域と学生の協働まちづくりプロジェクト」 京都府立大学 「南丹 高校生地域探求部」 大谷大学 「(住民×学生)コロナ後の集落福祉を考えるワークショップ」
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	<p>当該事業を通じて、地域課題の解決と市民活動の活性化がともに促進され、「市民とともに歩む地域づくり」に繋がっている。</p> <p>特に学生に特化して取り組むことで、学生と地域を繋ぐ意義の大きい事業である。</p>
今後の方向性	<p>京都府内に拠点を置く大学などの高等教育機関や南丹市と協定を締結している学校と連携し、学校や学生・地域が交流する機会を増やす。</p>

事業名: 小学校跡施設管理費			
担当課: 地域振興課			
交付金名: 地方創生推進交付金	対象事業費:	25,425	うち交付金充当: 12,712 (千円)

<1> 事業の概要

目的	廃校となった小学校跡施設を活用し、地域の子どもから高齢者までが集い、住み慣れた地域で生き生きと健康に暮らしていける仕組みの形成とともに、地域の資源を活かし地域内外の交流を通じ、地域社会の活性化を図ることを目的として、南丹市地域活性化センターを設置し、地域の拠点施設とする。
実施内容	地元組織を指定管理者とし、施設の管理・運営を委託した。
コスト削減等の工夫	地域振興会などの地元組織が指定管理者となり、地域の拠点施設として活用したことにより、地域住民のニーズに合った施設運営ができた。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	南丹市小学校跡施設本部会議において、各地域活性化センターで実施する事業などについて、情報共有を図っている。

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【4】誰もが安心して暮らし、活躍できる地域をつくる
施策	(4-2)市民とともに歩む地域づくり
基本的方向	多様化する地域課題の解決に向け、地域を牽引する人材の掘り起こしと育成にも取り組むとともに、市民協働の取り組みを通じて地域コミュニティの衰退を防ぐ。
〈想定した事業・取り組み〉	●廃校舎を活用した地域の拠点づくり

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	地域活性化センター 7施設 (川辺地域活性化センター・西本梅地域活性化センター・新庄地域活性化センター・吉富地域活性化センター・五ヶ荘地域活性化センター・平屋地域活性化センター・大野地域活性化センター) 地元組織が施設の管理・運営することにより、地域の拠点として住民と連携した事業や活動を実施することができた。
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	地域のシンボリック的存在である小学校の跡地を地域活性化センターとして有効活用できている。また、その活用を地域に任せることで、「4-2 市民とともに歩む地域づくり」にも繋がっている。
今後の方向性	地域の拠点施設として、指定管理者制度による適正な施設の維持管理と地域の特長を生かした施設運営を進める。

事業名: アーティスト・イン・レジデンス事業			
担当課:	地域振興課		
交付金名:	地方創生推進交付金	対象事業費:	1,500 うち交付金充当: 750 (千円)

<1> 事業の概要

目的	市民と芸術家が交流する機会を創出することにより、地域が持つ可能性やその魅力をアートを通じ発信することで、交流人口の拡大、地域の活性化につなげる。
実施内容	京都:Re-Search実行委員会に参画し、負担金を支出した。
コスト削減等の工夫	アーティストが地域に滞在し、地域の魅力を発信することで地域の活性化につながった。
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【4】誰もが安心して暮らし、活躍できる地域をつくる
施策	(4-3)次代に繋ぐ連携の地域づくり
基本的方向	既存施設や地域資源の有効活用で負担を減らし、人口減少に対応しながら市民満足度を向上させる取り組みを持続させるとともに、近隣自治体や府と連携し、多様化する住民ニーズや広域化する行政課題に対応する。
〈想定した事業・取り組み〉	●京都府との連携

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	「京都府域展開アートフェスティバルALTERNATIVE KYOTO in 南丹」 アーティストが約2ヶ月間南丹市に滞在し、制作した作品をJR八木駅前商店街内の店舗等で展示し、市民がアートに触れ楽しむ機会やアートを通じて、地域の魅力発信を行った。 「大京都 2021 in 南丹」 10/1~11/7 ・展示 JR八木駅前商店街の店舗など 15カ所 来場者数 延べ 4,232名 ・鑑賞ツアー 11/3 参加者数 延べ35名
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	市単独では難しいアーティストの選考・マッチングについて京都府が担い、地元への受け入れ調整を市が担う、という府市連携によって成立する「連携の地域づくり」に資する事業である。
今後の方向性	「京都:Re-Search実行委員会の構成員から外れるが、地域の魅力発信など京都府と連携する。

事業名:	森の京都推進事業		
担当課:	観光交流室		
交付金名:	地方創生推進交付金	対象事業費:	8,238 うち交付金充当: 2,972 (千円)

<1> 事業の概要

目的	関係自治体、各分野の事業者や関係団体等で設立した森の京都DMO(一般社団法人 森の京都地域振興社)を核として、これまでの「森の京都」の取組や各地域で芽生えている地域づくりの取組や活動などを育み、地域の実践者が主体となった取組が持続可能なものとなるように環境を整えるとともに、地域資源を生かした商品造成・販売、都市農村交流、特産品のブランド化、人材育成、プロモーション、情報発信などを行い、「森の京都」をテーマとした観光まちづくりを推進する。合わせて移住定住につながる取組を進める。
実施内容	観光を通じた地域活性化を目指し、京都府と亀岡市、南丹市、京丹波町、福知山市、綾部市で設立された森の京都DMOへ負担金を支出する。
コスト削減等の工夫	効果的な事業展開のための支援、事業収益増額のための支援
本事業と関係する取組(市事業・府や民間の取組)	観光協会事業、観光宣伝事業、美山観光まちづくり協会事業

<2> 南丹市地域創生戦略における位置づけ

基本目標	【4】誰もが安心して暮らし、活躍できる地域をつくる
施策	(4-3)次代に繋ぐ連携の地域づくり
基本的方向	既存施設や地域資源の有効活用で負担を減らし、人口減少に対応しながら市民満足度を向上させる取組を持続させるとともに、近隣自治体や府と連携し、多様化する住民ニーズや広域化する行政課題に対応する。
〈想定した事業・取組〉	●森の京都ブランドPR

<3> 成果と今後の方向性

実施結果(アウトプット)	マーケティング調査・分析(アンケートの実施)、地域開発推進事業(着地型旅行商品・滞在型コンテンツの開発推進、文化観光サポーターの配置、オンラインツアーの実施)、地域の食を活用した観光地域づくりの推進(ジビエフェア)、観光客受け入れ体制・環境整備(農山村教育体験旅行の充実、古民家活用に向けた取組)、認知度苦情に向けた取組強化(QRトレインの活用、多様な団体との連携、ホームページのリニューアル、ECサイトのプラットフォーム化)、アクセス強化・二次交通事業誘客事業(カーシェアリングの推進、ドライブチェックポイント)
戦略上位置付けた施策に与える影響(アウトカム)	上記実施結果として記載している成果は、市単独規模ではなし得ないものが多く、京都府や府内自治体との連携によって、「次代に繋ぐ連携の地域づくり」としての継続性が担保されている。
今後の方向性	引き続き支援を行い、観光による地域活性化と合わせ観光を切り口とした定住促進を図る。